

平成25年度 目黒区立第八中学校 学校評価のまとめ

(平成26年3月25日)

評価項目	自己評価の結果	次年度の教育課程の改善点
学校教育への満足度 ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて 1 3 5 保護者 87% 生徒 80% 地域 100% 教職員 94%	・学校生活への充実度については、生徒・保護者とも 88%と上昇し、高い数値となった。地域の方や保護者と協力し、教職員全員で丸となって日々の教育活動の充実に取り組んだ成果といえる。 ・教職員は「親切、丁寧、誠実」を目標に保護者・地域に対応した結果、保護者は 90%、地域は 91%「誠実に対応できている」という満足度であった。 <四者による学校評価の主な内容>○成果 ●課題 ○学校の教育活動については、四者とも昨年度より高い数値を示している。特に保護者は昨年度より 6 ポイント高い。 ●生徒の学校の教育活動についての満足度が 80%で保護者、地域の評価と比較すると低いのでさらに高い数値に上げていきたい。	・それぞれの学年で学級経営に力点を置き、子どもが安心して過ごせる落ち着いた雰囲気の学級づくりに努めていく。 ・引き続き生活指導に力を入れ、けじめある生活、善悪の区別、授業規律の徹底等に教職員全員で取り組む。 <学校評価委員の意見> ・先生達は、誠実にやさしく丁寧に子どもに接しているので続けてほしい ・授業力、統率力、生活指導にさらに磨きをかけていくことが必要である。
教育課程 ・教育目標、時程、教育内容全体について 6 7 保護者 94% 生徒 75% 地域 100% 教職員 94%	・教育目標や指導の重点については、子どもや地域の実態に合っているとする評価が、保護者・地域共に多く、高い数値を示している。 ・教育目標への理解・共感については、保護者では 3 ポイント、生徒では 4 ポイント昨年度より上がっている。 ・教育目標は次年度も継続する。重点項目を決め、常に意識した教育活動を展開する。 <四者による学校評価の主な内容>○成果 ●課題 ○年度当初の学校だよりにより教育目標や指導の重点を掲載し、周知したことで保護者・地域の評価は高かった。 ●生徒の教育目標への理解度が、昨年度よりも 4 ポイント上がったとはいえ、75%である。	・年度当初の「学校だより」への掲載を継続する。 ・生徒には朝礼や開校記念日などの機会を捉え、教育目標の理解を高める。 ・教育目標の一つ「求めて学ぶ」を来年度も引き続き。重点項目とし、全ての教育活動を通して定着を図る。 <学校評価委員の意見> ・教育目標三項目とも生徒たちに身に付けさせたい項目である。重点項目をしぼるなどして、さらに定着させていってほしい。 ・「求めて学ぶ」は大切な項目である。
心の教育 ・道徳の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 8~10 保護者 90% 生徒 90% 教職員 79%	・道徳の授業の充実に対する保護者の評価は高い。生徒の評価もかなり高い。「道徳授業地区公開講座」の取組だけでなく、日頃の道徳授業の充実を図った成果であると思われる。より一層、生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について、内容を精査し全校で取り組む必要がある。 ・通常の学級と E 組との交流は、交流給食や定期考査後の交流会、ならびに運動会の種目の取組や宿泊行事などで増えてきた。今後も可能な範囲で交流・共同学習を深めていく。	・引き続き「道徳授業地区公開講座」を土曜日実施とし、保護者・地域の方の参加を増やす。 ・道徳授業をより深化させるために、授業の工夫・改善を図る。特に、個々の生徒が思いを受け止め他者を理解することができるような取組を進め、人権教育につなげていくことが必要である。 ・2 学年での「命の授業」は有効であった。

	< 四者による学校評価の主な内容 > ○成果 ●課題 ○心の教育全般にわたって高い評価を受けている。昨年度と比べても更に伸びている。 ●教職員の評価が 78.9%と、保護者、生徒の評価よりも低い値を示している。より一層、生徒の実態に合わせた教育活動を進めていかなければならないという課題を認識していると思われる。	< 学校評価委員の意見 > ・道徳教育の充実が求められている。生徒と先生、生徒同士が意見を出し合えるような雰囲気づくりに努めてほしい。いじめなどいけないことに対して、正しい判断ができる生徒を育ててほしい。家庭や地域と連携することも大切である。
学習指導 ・学力の定着・向上にむけた授業の改善・充実、少人数指導、放課後学習教室等の取組について 11 12 13 26 28 ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 保護者 75% 生徒 82% 教職員 84%	・学習規律の定着の項目は、保護者の肯定的評価は 50.5%と昨年度より 10% 近く高くなった。しかし、生徒については 43.9%と前年より厳しい結果となっている。3 年だけをみると 74.3%と高い数値であるが、1 年 34.0%、2 年 22.6%と非常に低い数値であった。 ・工夫した授業をする教員については、保護者 67.6%、生徒 78.0%と昨年度より若干肯定的評価が高くなっている。これは、思考力、判断力、表現力の充実を図る授業の展開を目指している成果と思われる。 ・放課後学習教室は、保護者 92.0%、生徒 81.1%と高い評価であった。特に、後期から 3 年生の学力補充に特化し好評を得たと考えられる。 ・体験的な学習への積極的な取組の評価も高くなった。昨年度の反省を生かし、ねらいを明確にして、事前・事後学習の充実を図った成果であると思われる。 ・キャリア教育の充実について、保護者 90.7%、生徒 81.1%と一定の評価を得ている。学年進行に応じて、計画的に進路指導に取り組んできた成果と考えられる。 ・学習指導要領に示された「思考力・判断力・表現力等」を学校全体で、組織的に育成していくことが課題である。教科指導だけでなく、教育活動全体で育成を図っていく必要がある。	・少人数授業の展開については、実施形態・方法など生徒に学力が定着するように十分に配慮して行う。 ・学校全体で、組織的な授業改善に取り組んでいく。 ・学習規律の定着のためにも、授業改善を目指し、落ち着いた雰囲気での学習に取り組むことができるように務める。特に当たり前のことを当たり前に実践させる取組が必要である。 ・放課後学習教室は、教職員間の連携を図り、個々の生徒の状況を共有して指導できるように工夫する。学習の遅れがちな生徒に自信をもたせる工夫が必要である。 ・体験的な学習に対してねらいや学習方法などを明確にし、事前・事後学習を充実させる。他の教育活動との関連を深める。 ・これまで進めてきたキャリア教育の在り方を一度見直し、外部講師や社会人を積極的に活用するなど、時代の趨勢に合わせた内容を工夫する。
	< 四者による学校評価の主な内容 > ○成果 ●課題 ○生徒が意欲的に取り組むことができる授業の展開がうかがえる。 放課後学習教室について、一定の成果をあげることができた。 ●学年により授業規律の確立に差がみられる。各学年による対応も大切であるが全校で取り組む必要がある。	< 学校評価委員の意見 > ・やや落ち着きのない教室もあった。 ・知識をただ覚えるのではなく、身に付けた知識や技能を活用し課題を解決していく能力を育ててほしい。

特別活動 15～18 ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて 保護者 90% 生徒 87% 地域 100% 教職員 100%	・学校行事の活性化に努めているという意見が多い。生徒会活動も支持する意見が多く、今後さらに充実させていく。また、E組交流会や異学年交流会も充実させていく必要がある。 ・部活動に対する保護者からの支持も多く、運動系・文化系の部活動がともに活発に活動している。やって良かったという生徒の声が多い。生徒の主体性や規範意識を育てるよう、活動内容の充実・改善を考えていく。 ・教員が常に指導にあたるわけではないことから、外部指導員を確保し、生徒の期待に応えるように工夫する。	・今後も保護者、生徒、地域からの支持を維持していくために、全校体制で学校行事、部活動に取り組んで行く。 ・E組との日常的な交流・共同学習を充実させる。 ・引き続き外部指導員の確保に努める。 ・部活動により部員の偏りがあるが、どの部活も充実した活動が送れるよう予算や活動時間の確保、指導の充実に努める。
	<四者による学校評価の主な内容>○成果 ●課題 ○保護者と生徒からの評価が3ポイント上昇している。 ●地域の評価が9ポイント下がっている。今後も特別活動の充実に努める。	<学校評価委員の意見> ・部活動について、先生方の負担も大変だと思うが、生徒たちが楽しみにしている教育活動でもある。外部指導員を活用して充実させてほしい。
生活指導 2 19 27 ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 保護者 60% 生徒 84% 地域 89% 教職員 47%	・前年度の反省を受けて全校体制で生活規律や学習態度を根気強く指導してきた。少しずつ成果が現れ、ポイントが上昇した。 ・生活の決まりを見直し、生徒の実態にあわせた指導を全教職員が統一した形で実施できるように見直しをしていく。 ・心にストレスや悩みを抱えている生徒との関わりを、SCと協力しながら実施していく。「いじめアンケート」を定期的の実施し、生徒の実態や様子の変化を見逃さないように指導に役立てていく。 ・特別支援教育の研修を実施して生徒理解や対応方法等をいかすことができた。継続して研修を深める。	・引き続き、全校体制で組織的に生徒指導に取り組んでいく。 ・生活規律や学習態度など自主的に判断し、行動できる生徒の育成に努める。全教職員が同一步調で指導できる体制を作る。 ・関係諸機関と密に連携を図った。今後も継続して生徒指導にいかしていく。 ・保護者や地域との連携を引き続き深めていく。祭礼、もちつきなど地域行事に生徒を参加させる。
	<四者による学校評価の主な内容>○成果 ●課題 ○後期後半に具体的な目標を5つ定め、達成状況を自己評価させた。繰り返し指導することによって成果が少しずつ現れてきた。 ●四者の評価ポイントは上がったが、まだ保護者、教職員のポイントは低い。	<学校評価委員の意見> ・「いじめ防止強化月間」「人権週間」などの取組は評価できる。いじめが起きない環境づくりが必要と思う。
安全教育 20 21 ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 保護者 83% 生徒 87% 教職員 71%	・避難訓練、引き取り訓練、セーフティ教室、登下校指導などを通じて、安全管理に対する意識を高め、安全を守るための適切な行動の指導に努めた。緊急時に備え、引き取り訓練は改善しながら継続して行う必要があると考える。また、外部機関とも連携し、工夫した防災訓練に取り組んでいく。 ・火災・地震・不審者など様々な場面を想定した避難訓練を計画的に実施し、災害に対する意識・知識を高め、適切な行動を取ることができるよう指導を継続して行う。	・避難訓練、引き取り訓練、集団下校訓練など、反省点を生かして指導の改善に努める。 ・緊急時の対応の共通理解を徹底し、災害や事故に備える。防災マニュアルを常に改訂していく。 ・情報モラル教育の充実を、技術科の授業や道徳授業を活用して全学年で取り組む。

	< 四者による学校評価の主な内容 > ○成果 ●課題 ○多くの生徒が避難訓練や集団下校訓練に対して真剣に取り組んでいた。 ●安全教育について、生徒は 8 ポイント上がり、保護者・教職員ともに下がった。下がった原因は、休み時間などに生徒が落ち着かない状況があるためと思われる。	< 学校評価委員の意見 > ・安全教育について計画的に取り組んでいる様子がうかがえた。避難訓練は変化をもたせて、生徒が主体的に取り組むような工夫が必要だと思う。地域と連携して取り組んでほしい。
健康教育 14 ・運動の機会の充実、食育や家庭への啓発等 保護者 84% 生徒 87% 教職員 83%	・「給食だより」「保健だより」等の配布物や校内掲示、給食時の巡回指導、行事の時の健康指導などを通して、日常の健康管理の大切さや食と健康との関わりについて呼びかけ、意識の向上を図った。 ・学校保健委員会主催の「健康作り講座：ストレッチ教室」を実施した。生徒と保護者がいっしょに健康について学ぶ機会を提供した。 ・給食試食会など、実際に学校給食に触れていただく機会を持ち、給食の意義や目的について理解を深めてもらいながら、家庭での食育について提案した。	・現在、学校の HP に給食のメニューが毎日アップされている。このようにインターネットなどのネットワークを活用し、情報の発信を今後も実践していく。 ・運動系部活動が盛んで運動に熱心に取り組む生徒が多い中、スポーツ障害や熱中症などの問題も軽視できない。安全で健全な成長を促す運動のあり方について、生徒・保護者とともに考えていく。 ・食育をさらに充実させ、給食を通して生涯に関わる食の知識や健康・安全への意識向上を図る。 ・アレルギー対応を徹底する。
	< 四者による学校評価の主な内容 > ○成果 ●課題 ○保護者評価は 6 ポイント、生徒は 3 ポイント上昇している。引き続き、健康教育の充実に努める。 ●教職員は 3%低下している。教員の理解の共有に努め、全校体制で活動に取り組む必要がある。	< 学校評価委員の意見 > ・食育、アレルギー対応など適切に行われている。 ・基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭とも連携を深めてほしい。 ・自己の健康管理ができるように指導してほしい。
保護者や地域との連携 ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA 活動の充実などについて 23 24 25 4 保護者 82% 地域 100% 教職員 97%	・学校公開 12 日（運動会・学習発表会含・道徳授業地区公開講座含む）、保護者会、ホームページ、学校だより、学年だより、見守りメール等を通じて、様々な機会に情報を発信してきた。 ・人権週間、薬物乱用防止教室、目黒を知る、職業体験等などで地域・保護者の方に協力していただき感謝している。	・信頼される学校を目指し、来年度も様々な機会を利用して情報を発信し、保護者・地域との協力体制に努める。 ・住区のもちつき大会、クリスマスコンサート、竹の子まつり等生徒が参加し好評であった。
	< 四者による学校評価の主な内容 > ○成果 ●課題 ○学校と保護者・地域の連携についての項目で、保護者の数値が昨年度に比べて 7 ポイントアップした。 ●上記で、教職員 95%、地域 88%と比較すると保護者は、75%で若干まだ低い。	< 学校評価委員の意見 > ・八中は様々な情報を良く発信してくれるので、学校の様子が分かり楽しい。これからも続けてほしい。 ・地域の行事に積極的に参加してほしい。地域も八中生の参加を楽しみにしている。

小・中連携教育 ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について 22 保護者 86% 教職員 58%	・教員同士は年2回授業を見合ったり、きまりや行事内容を確認したりするなど連携を進めている。 ・今後も八中校区の「目指す子ども像」を明らかにし、共通理解のもと小中連携のあり方を考えていく。 ・今年度から6年生対象の授業見学会を授業・部活動体験会に変更し、実際の授業体験、部活動体験を行った。児童には好評であった。 ・空き時間などを利用して、お互いの授業見学、講演会見学などを見学しあえるように、日頃からの連携を密にしていく。	・「小中連携子ども育成プラン」を念入りに作成し、それを基に児童・生徒の交流やカリキュラムなどを含む連携を図り、9年間を見通した子どもの育成を目指す。 ・小学生対象に中学校の授業体験・部活動体験・合同合唱会を実施し、児童と生徒の交流を増やす。 ・来年度は音楽科での連携に力を入れ、「歌声の響く八中校区」を目指す。
	<四者による学校評価の主な内容>○成果 ●課題 ○中学校体験会、説明会、いじめ問題を考える集いなどで交流が持てた。 ●保護者については8ポイント上がったが、教職員は3ポイントだった。	<学校評価委員の意見> ・八中校区の子どもたちを学校、家庭、地域が連携して育てていきたい。

☐ 内の数字は「保護者による学校評価」の項目番号です。